

毎日の学習で世界は変わる まなび、デジタル、SDGs

イベント報告 茅ヶ崎市立梅田小学校

日本の子どもたちの学びを通じて
開発途上の子どもたちに学校給食をプレゼントする。



AOZORA（伊藤剛、東京都府中市）とフラックワークス株式会社（代表：高田篤、京都府京都市）は、茅ヶ崎市立梅田小学校（大久保校長、神奈川県）の児童約200人がデジタルドリルを解くごとに、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International（代表理事：小暮真久、以下、TABLE FOR TWO）を通じて、開発途上国の子どもたちに学校給食をプレゼントするイベントを、令和6年3月5日～6日に実施しました。

令和6年3月5日～6日
イベント報告

開発途上国の **943** 食分プレゼント
TABLE FOR TWO を通じて
子どもたちに学校給食



茅ヶ崎市立梅田小学校の子どもたち約200人（3年生、4年生、5年生）が、3月5日と6日の2日間に、デジタルドリル教材に取り組みました。**結果、正解が37,724問に達し、開発途上国の子どもたち943人に学校給食を1食、プレゼントすることが決まりました！** 子どもたちが学習に積極的に取り組んだことが伺えます。梅田小学校の先生方が、子どもたちの学習意欲を高めるための取り組みを行ってくれました。

このあと **TABLE FOR TWO** を通じて、開発途上国の子どもたちに学校給食が届けられます。



オリエンテーション

01

イベントの前にみんなでオリエンテーション動画を視聴しました。



ワークシート

02

オリエンテーション動画視聴後、ワークシートで考えを深めました。

学習者用 GIGA 端末を使い、**デジタルドリル教材**の問題を解いて、**40問正解するごとに、学校給食1食**を支援しました。



デジタルドリル教材

03





日本の子ども

参加者の感想

イベントに参加をしてくれた梅田小学校の4年生の子どもたちの感想（一部）をご紹介します。ここで紹介できない子どもたちの感想は「まなび、デジタル、SDGs」のwebサイトにて掲載を予定しています。

感想

動画を観て、どんなことを感じたことや考えたこと
 テレビでたまにNHKで食べ物を食べられる人たちがいることについて見たことがあって、その人たちが目を覚ましてあげたいとも思っていました。いつも食べているごはんは、あたりまえのよつに食べているけれど、やっぱりたいせいな食べ物とあらためて思いました。やっぱり、ごはんを食べているってできるなんて、夢のようだと感じました。

終わった後にこたえてね その人たちに元気をあげたいです。
 ◆まなび、デジタル、SDGsの取り組みについてどう思いましたか
 たのしみながらまなぶことができて、そのうえ40問正解したらきょう食を食べていこうできたので、すばらしいと思いました。

◆このようなきかいがあったら、また問題にチャレンジしてみたいと思いますか(○をつけてね)
 やってみたい ・ やりたくない

◆アフリカの子どもたちと一緒に、やってみたいことは？
 やってみたいこと(理由)
 みんなでたのしみながら、たのしみに食べてほしい。みんなが元気にいられるように。

感想

動画を観て、どんなことを感じたことや考えたこと
 問題を解いてアフリカの子どもたちが栄養食を食べられるなら、なるべく多くの栄養食を食べられるようにできるかぎりたくさん問題をといた方がよい人だなと思った。栄養食は、勉強をやる力にもなるから、栄養食を食べてたくさん学んでほしいと思った。栄養食を食べられない子がいなくなるいいなと思った。食事は3日とって勉強もかんばってほしいなと思った。

終わった後にこたえてね
 ◆まなび、デジタル、SDGsの取り組みについてどう思いましたか
 自分たちが勉強できる上、アフリカの子どもたちにも栄養食が配られるという、いい事に2つことのできるシステムはすばらしいなと思いました。

◆このようなきかいがあったら、また問題にチャレンジしてみたいと思いますか(○をつけてね)
 やってみたい ・ やりたくない

◆アフリカの子どもたちと一緒に、やってみたいことは？
 やってみたいこと(理由)
 いっしょに栄養食を食べて、勉強もかんばってほしいから。理由
 栄養食は色々なメニューがあって、おいしいので、いっしょに食べて、勉強もかんばってほしいから。

感想

動画を観て、どんなことを感じたことや考えたこと
 食べすぎて病気になる人がいるのはじめて知った。新聞で食べ物を食べている人を撮ったとき、おどろきとかが思わなかったけれどやっぱり自分も毎日ごはんを食べられることはあわやだと思った。未来ではこういう食べ物の人も食べられても食べられない学校にいきたくて、いらない人がいなくなしてほしい。自分もその問題を解決するために取り組みにかかりたい。きっとアフリカでがんばって世界には8億人も食べられない学校に行かないという人がいると思う。この取り組みでみんなが元気にいられるように。

終わった後にこたえてね
 ◆まなび、デジタル、SDGsの取り組みについてどう思いましたか
 勉強もやるから自分のためにやるのとアフリカの人に食べ物がとどくので一石二鳥だと思いはじめ、わたしは日本人に食べ物をとどけられたと思えるのがいいと思った。←みんなにとどけられた！

◆このようなきかいがあったら、また問題にチャレンジしてみたいと思いますか(○をつけてね)
 やってみたい ・ やりたくない

◆アフリカの子どもたちと一緒に、やってみたいことは？
 やってみたいこと(理由)
 きょう食を食べたいよ。たべたい。理由
 1人でがんばるよりもみんないっしょにたべたいのがおいしく感じると思うから。

感想

動画を観て、どんなことを感じたことや考えたこと
 世界には問題がたくさんあるけどその中でごはんが食べられないのはくさしいなと思いました。私たちは、旧国があたりまえなので1食ぬいただけでもくさしいです。なのに、食べられるのは、きょう食だけの人がいるから、もっとみんな平等にごはんが食べられたらいいなと思います。たくさん食べすぎてびっくりしてしまう国もあるからごはんの量が国によってこんなに変わるのにはがたを感じました。

終わった後にこたえてね
 ◆まなび、デジタル、SDGsの取り組みについてどう思いましたか
 すばらしいとびっくりしました。みんなが元気に勉強することで食事がこんな人な国がすくわれる。そんなこのとりにくみがもっとたくさん地いきに広がることかな。

◆このようなきかいがあったら、また問題にチャレンジしてみたいと思いますか(○をつけてね)
 やってみたい ・ やりたくない

◆アフリカの子どもたちと一緒に、やってみたいことは？
 やってみたいこと(理由)
 数日間、日本に来て、ごはんが食べたいやらないことのできるのをはなれたい。理由
 楽しいごはんが食べられるから。

感想

動画を見て、どんなことを感じたことや考えたこと

この世界には食料がなくてしまっている人がおよそ8億人いる事におどろきましたそれに食べすぎや運動不足で病気になる人もいるんだなと思いました(およそ20億人)そんな苦しんでいる人たちのために私たちが勉強をすればすこしだけでもかんきょうのためになると思いました。

終わった後にこたえてね

◆まなび、デジタル、SDGsの取り組みについてどう思いましたか

もんだいを解くことでアフリカの子どものためになると思えていいなと思いき、早くドリルをやらせました。

◆このようなきかひがあったら、また問題にチャレンジしてみたいと思いませんか(○をつけてね)

すごくやってみたい ・ やりたくない

◆アフリカの子どもたちと一緒に、やってみたいことは?



| | |
|--|---|
| やってみたいこと(○) はないが、おうちでやってみたい。あがいをかきまわしてあげたい。 | 理由 あがいた国とのかかわりがあることがあまりないし、あがいた国の子どものあがいをかきまわしてあげたいから。 |
|--|---|

その他の感想

- 問題を解くことでアフリカの子どもにご飯が届けられるというのは凄く良いと思いました。
- 自分も食べるし、世界のご飯が食べられなくて困っているみんなもご飯が食べられて一石二鳥だと思った。
- またこういう機会があればぜひ挑戦したい。
- 勉強をやったかいがあるなど思った。
- 943人に給食が配れてよかった。
- (まずしい国の人たちに)喜んでもらえてよかった。

見たことも、出会ったこともない国の子たちだけど・・・「助けなきゃ!!」その純粋な気持ちは、子どもたちの中にごく自然に湧き上がってきた感情だと感じました。

普段の学習が、世界の誰かのためになる、とても素敵な取り組みだと思います。『何のために、誰のために勉強するのだろうか・・・』その答えを理解することは、子どもたちにはとても難しいことだと思いますが、学習した先には、大きな世界が広がっていることを、少しでも身近に感じてくれるきっかけになれば嬉しいです。

茅ヶ崎市立梅田小学校 教諭 周東 瞳

第1弾イベントのミッション

学校で学べる環境にいる子どもたちには「学ぶ目標」を提供し、安心して学べない環境にいる子どもたちには「学校給食」をプレゼントします。子どもたちの学習支援と開発途上国の子どもたちへの支援を行います。

次回のイベント計画中！
Web サイトでお知らせします。

NEW

全国の小学校、中学校の皆さん、
参加をお待ちしています

無料

近々の目標

開発途上国の
子どもたちに学校給食

TABLE FOR TWO を通じて
10000 食分 プレゼント

支援の仕組み



日本の子ども



開発途上国の子ども

ドリル問題を解く
 ↓
 正解すると1ポイントをGET!
 ↓
 イベント期間にポイントを稼ぐ
 ↓
 参加したみんなの合計ポイント数
 ↓
 開発途上国の子どもたちの学校給食を支援

1問正解 → 1ポイント → 40ポイント = 学校給食1食分

1ポイント → 0.5円(日本円) / 40ポイント → 20円(日本円) → 学校給食1食分 ※今後、条件が変わることがあります。

イベントの流れ



イベントの概要

イベント期間中、子どもたちは学校や家庭の時間を活用し、学習者用 PC 端末を使用してデジタル版ドリル教材に取り組みます。子どもたち一人ひとりの学びが開発途上国の子どもたちへの支援につながります。

その学びの成果である学習の進捗（ドリル問題の正解数）に応じて、企業の寄付金を活用し、TABLE FOR TWO を通じて開発途上国の子どもたちに学校給食をプレゼントいたします。

[第1弾] イベントパートナー



特定非営利活動法人
TABLE FOR TWO International について

2007年10月設立。“TABLE FOR TWO”を直訳すると「二人のための食卓」。先進国の私達と開発途上国の子どもたちが食事を分かち合うというコンセプトのもと、社員食堂や店舗でTFTヘルシーメニューを購入すると、代金の内20円が寄付となり、飢えに苦しむ世界の子どもに給食1食分をプレゼントすることができます。企業や官公庁、大学、病院など約700団体にご参加いただき、東アフリカと東南アジアの5カ国（ケニア、タンザニア、ルワンダ、ウガンダ、フィリピン）を中心に、学校給食の提供、そして菜園・生産性向上プログラムの支援を実施。これまでに1億食以上の学校給食を届けてきました。



jp.tablefor2.org

お問い合わせ

本イベントに関するお問い合わせや詳細につきましては、下記をご参照ください。



学校関係者
教育委員会関係者の方々



お問い合わせ
[manabi-digital-sdgs.com/
contact](http://manabi-digital-sdgs.com/contact)



企業関係者の方々



お問い合わせ
[manabi-digital-sdgs.com/
contact](http://manabi-digital-sdgs.com/contact)



寄付・協賛、教材提供
について
manabi-digital-sdgs.com/donation

協賛企業を募集しております。あわせて子どもたちが使用するデジタル教材を募集しております。



毎日の学習で世界は変わる
まなび、デジタル、SDGs
manabi-digital-sdgs.com

本記事に対する問い合わせ
担当：伊藤 剛
goito@flak.jp

